

### 第3回「立山黒部」世界ブランド化推進会議 議事録

日 時：平成30年3月26日（月）

10:00～12:15

場 所：都道府県会館 101大会議室

#### 1 開会

#### 2 挨拶（石井知事）

皆さま、おはようございます。第3回の「立山黒部」世界ブランド化推進会議の開催にあたり、西村座長さん、田村観光庁長官をはじめ、本当に錚々たるお忙しい皆さまにご参加賜りまして、誠にありがとうございます。

本県では、昨年6月にこの推進会議を設置させていただきまして以来、せっかく皆さまから色々のご意見、貴重なご意見をいただいておりますので、できるだけ自分でやることは進めたいと思ひ、アジアの地域は強いんですけれども、比較的手薄だった欧米、豪、英への情報発信ですとか、また、多言語表記、ガイド面での質的な充実とか、可能なことは順次、取組を進めておるところでございます。おかげをもちまして、もちろんTKKさんとか黒部峡谷鉄道さんとか色々な皆様のご尽力、ご協力のおかげであります。昨年の立山黒部アルペンルートの外国人の観光客数は過去最高の26万3,000人となりまして、14年前の約11倍となってまいりました。また、黒部峡谷鉄道の外国人のお客様も、前年度から約3割増となったところでございまして、過去最高の2万8,000人となっております。

また、これはお礼ですけれども、既に白岩砂防堰堤は国の重要文化財に指定いただいていたんですけれども、昨年の10月に、さらに本宮堰堤、泥谷堰堤もあわせて「常願寺川の砂防堰堤」ということで、国の重要文化財に指定いただきました。また併せて、ICOMOSの国内委員会、これは西村座長が委員長をなさっているわけですが、「日本の20世紀遺産20選」に、この「常願寺川の砂防堰堤」と「黒部川水系の発電施設群」が、それぞれ20選のなかの上位3番、4番に位置付けられ、選定していただきました。改めて、この立山砂防を大変高く評価いただけたと、学術的立場からも大変ありがたいことと思っております。

今後とも、皆さまからもご提言いただいておりますように、立山黒部は色々な面で非常に高いポテンシャルを持つ地域でありますから、ぜひ観光の面など様々な面で、その価値を磨き上げて、さらに高めて、世界ブランド化に繋がるようにやってまいりたいと思ひます。

具体的には事務方から説明しますけれども、来年度は、ロープウェイ等の新たなアクセスルートの検討のための調査をはじめたり、携帯電話の不感地帯、またWi-Fiの未整備エリアの解消ですとか、旅館やホテルのハイグレード化を後押しする制度を作るとか、またアルペンルートの繁忙期をできるだけ解消するような民間バス会社等に対する支援制度を設けるとか、ライチョウの保護をさらに進める、登山道、木道の整備などもこれまで以上に力を入れて取り組んでおります。

今日の会議では、前回の指摘のありましたブランドコンセプトについて、事務局でその後整理いたしました案を基にご議論いただきますとともに、各プロジェクトの進捗状況をご説明いたしまして、今後の進め方について、各委員の皆さまから忌憚のないご意見、ご提言を

賜りたいと思っております。今日はひとつよろしく願いいたします。

### 3 報告事項

立山黒部アルペンルート及び黒部峡谷鉄道の平成29年度の営業概要について、立山黒部貫光(株)及び黒部峡谷鉄道(株)より説明

#### 【西村座長】

おはようございます、よろしく願いいたします。今日は2つ議題がありまして、ブランドコンセプト（案）についてできれば今日決定したいということと、それからプロジェクトの進捗状況、これは様々報告いただきましてご意見をいただくということで、継続的に議論を進めていくものであります。

議題に入ります前に、立山黒部アルペンルートと黒部峡谷鉄道の昨年の営業成果について、参考資料を基にお話をいただきたいと思います。まず、立山黒部アルペンルートの状況につきまして、佐伯博委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

#### 【佐伯（博）委員】～参考資料1に基づき説明～

立山黒部貫光の佐伯でございます。昨年のアルペンルートの営業状況、参考資料の1番目に載っておりますが、全体では昨年92万9,000人ということで、前年度よりも1%多い101%という状況で終わりました。それぞれの中身につきましては、6月までは、雪の大谷の人気に支えられまして、海外客を中心に順調に推移してきた結果、前年を上回る実績をあげたわけですが、7月から10月にかけては、台風、長雨等の天候不順によりまして、都市圏からの個人客が減少しまして、数字的には厳しい数字に終わったわけでございます。

しかしながら、海外客におきましては、JRと連携した海外の個人客用の切符、そういったものの利用が非常に大きく伸び、また団体客も増加したため、先ほど知事のほうからもお話があったように、過去最高の26万3,000人に来ていただける結果となりました。また、国や富山県なども広域連携事業によりまして、継続的なPR活動、また営業活動を強化したことによりまして、海外の実績を伸ばすことができたと思っております。

その次、2番目の今年の予約状況につきましては、3月13日現在の4月、5月の状況でございますが、4月はどうしても集中する傾向がありましたので、平準化するというところに努力をいたしまして、5月、6月に分散をする施策がなんとか功を奏しまして、4月は今のところ、4月の15日から31日までは前年並み、5月におきましては、前年よりも10%、今のところ予約が多く入っているというようなことで、4月、5月のトータルでは106%というのが、現在の予約状況でございます。

また、積雪の状況につきましては、3月19日現在におきまして、室堂のほうの積雪は745ということで、前年よりも1メートル近く少ないわけですが、なんとか、昨年並みの雪の大谷の壁ができないかなというところに期待しておるわけでございます。以上です。

#### 【西村座長】

どうもありがとうございました。続きまして、黒部峡谷鉄道の状況につきまして、小橋委員からお願いいたします。

### 【小橋委員】～参考資料1に基づき説明～

黒部峡谷鉄道の小橋でございます。それでは、参考資料の2に基づきまして、簡単に説明をさせていただきます。まず、乗降人員の実績でございますが、平成29年度は67万7,000人ということで、前年度71万人に比べて3万3,000人ほど、前年比約マイナス5%ということで減少しております。この大きな原因は、平成29年度豪雨による運休と書いていますが、6月末の大雨の影響によりまして猫又駅が水没いたしまして、7月1日から7月9日まで全面運休、そして7月10日から7月14日までが一部区間運転ということで、正常ダイヤに戻るのに半月かかりました。こういったことが影響して、落ち込んだということでございます。下にグラフを書いてございますけれども、7月、そして8月にも少しその影響が出ましたので、7月、8月というところがマイナスが大きく出ていると思います。

その次のページからは、これは内訳でございまして、まず2ページ目は国内の団体でございます。国内の団体も7月、8月が大きくへこんで、10月に台風の影響がありまして、国内の団体はマイナス10%となりました。その次のページ、3ページ目が国内の個人でございまして、国内の個人も7月、8月が大きく影響を受けまして、後半頑張ったんですけれども挽回できずマイナス5%ということでございます。その次のページ、4ページ目になりますが、これが訪日でございます。これにつきましては、こういう状況のなかでも各月とも増分がございまして、トータルとして、先ほどご紹介いただきましたけれども29%増ということになりました。この海外運輸客につきましては、昨年の8月から、個人の海外の方向へのインターネット予約、そしてクレジット決済ということもできるようになりましたし、トリップアドバイザーからエクセレンス認証というのもいただきまして、しっかりと力を入れて頑張っていかなければならないと思っております。それから最後のページになりましたけれども、5ページ目でございますが、これは弊社が11月で平常運転を一応終了するんですけれども、今年は初めて冬の間、宇奈月駅の構内での150mの線路を使って、そこを2往復するという運転体験会を初めて実施させていただきました。これは宇奈月の賑わいのひとつになればいいという思いと、冬の間もトロッコの情報発信をして存在感を高めたいという思いもあり、やってみました結果、8,000円という値段だったんですけれども、113名の方に来ていただきまして、なかには4回来ていただいた方もおられました。皆さんにご意見もいただいております。来年はさらにいいものになりたいと思っております。

30年度につきましては、まず運開なんですけれども、運開は、雪は昨年より少し多いんですが、暖かい日も続いておりますので、昨年同様、4月20日に笹平まで、そして5月1日に鐘釣まで、5月5日のこどもの日になんとか全線開通という予定で進めているところでございます。頑張りたいと思っております。以上でございます。

### 【西村座長】

ありがとうございました。

## 4 議事

### (1) ブランドコンセプト(案)等について

## 【西村座長】

それでは議事に入りたいと思います。議事の1番目ブランドコンセプト(案)につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

### (事務局より資料1に基づき説明)

## 【西村座長】

ありがとうございました。

この点に関しては、ワーキンググループで何度も議論をさせていただきました。また、この今回提案されているコンセプトは、この地域で活動する様々な方々が共有してブランド化を推進していくに当たって、適宜振り返る言葉として提案したということでしたので、地元の委員の方々の意見が重要だということで、まずは県内の委員の方々にご発言いただきましたところで、県外の委員の方にご発言いただくという形で進めたいと思います。よろしいでしょうか。

ご発言をいただきたいということで、よろしければ佐伯千尋委員よろしくお願いたします。

## 【佐伯(千)委員】

立山山荘協同組合の佐伯です。

まずは知事さんにお礼ということで、ずいぶんたくさん予算を組んでいただきまして、先ほどのお話の中にもありましたけれども、Wi-Fi設備や携帯基地について予算計上いただき、ありがとうございます。

それでは、ブランドコンセプトということですが、自然ということに重点を置いておりますけれども、まず、知事さんもお覧になりましたけれども、重要文化財になっております立山の室堂の小屋、あれが江戸時代にできましたが、その時代のずっと前から、開山の歴史のある平安末期くらいから鎌倉と、ずっとなんですが、立山一体に入って、地元の人たちが登ってきました。山岳信仰、ガイド、あるいはまたぎ等々をしながら、立山の自然を守りながら、またそれに適したような利用の仕方をずっとしてきたものと思っております。それが現在残っているのではないかなと思います。ですから、自然がメインではありますが、人々の物語ということも、やはりそこに入っているのではなかろうかと私は思っております。

ただ、その中にありましてひとつ、訪日の皆さんが日本に来られるが、どこに魅力を感じておられるのか。高山にも行ってまいりましたし、金沢にも行ってまいりました。皆さんそういう日本の古い姿、古い施設が残っているところに集中して行っているのではないかと。日本らしいところが残っているところということだと私は思っております。ですからこれが、例えば、海外のマネをしてそのまま立山に入れてしまったら、日本のものはなくなってしまう。今まで我々が築いてきた、先ほど言いましたように、自然を守りながらそれを有効に育ててきた、我々先代、先々代の方々の姿が、ここで一気に壊されてしまうのかというおそれを私は抱きます。ですから、いわゆる立山の自然、これは非常に特殊なものだと思っております。海外のものとは違った、日本独特の、島国の、しかも日本海側にある山は、多量の雪が降って、暖かいからまた全部溶けてしまう。だからこそ、ダムもできれば、砂防ダムもできれば、ライチョウも住めば、氷河期の生き残りとかそういうのも残っている。そういう姿の中で守ってきているんだということをご理解していただければと思うんです。

さらに言わせてもらえば、美女平、天狗平、弥陀ヶ原にツェルマツトのようなホテルやレストラン、バーがたくさんできるような姿を想像できますでしょうか。少し私は無理だと思っています。そういう姿は山麓の方、要するにもっともっと広いエリア、地域全体のバランスの中で出てくるものではないのかと。ツェルマツトの、スイスのマツターホルン等々の山の辺りをよくよく見させてもらいましたし、私が実際行ったのはグリンデルヴァルト、アリーナのほうだったんですが、やはり山麓と山の上をきちんと分けて使っていました。そういうところが、またひとつの魅力でもあるし、多様性を持っているんだと思っています。ですから、何度も来たい、行きたい、何度も感動を与える場所であるんだと思います。

立山黒部エリアに関して言えば、国外、海外の先進をそのまま入れるのではなくて、育ててきたものを育てていく、見つけていく、再発見しながらいけば、何度も訪れたい滞在型の観光地あるいはリゾートになるんじゃないのでしょうか。以上です。

### 【西村座長】

ありがとうございます。日本らしさと地域ごとの戦略というのも必要だというご意見ありがとうございます。

それでは、このテーマは自然保護、環境保全ということが非常に重要になるわけですが、県環境審議会の専門部会長でもあります鍛冶委員にお願いしたいと思います。

### 【鍛冶委員】

まず、今、事務方のほうから説明してもらいましたブランドコンセプトの考え方、これは従来私が抱いてきた思いとほぼエッセンスは一致しております。言葉は色々表現のしようがありましようけれども、これで私はいいと思いました。といたしますのは、立山黒部の自然は優れた自然であり、国立公園のなかでも特に傑出していると、地元ですのでひいき目もありますが、その通りだと思っています。ただある時、黒部ダムから樺平に通ずるルートを見学させてもらったり、あるいは立山砂防を見たりした時に、それまで抱いていた立山黒部に対する自然の素晴らしさというものだけではなくて、あまり観光客の目に触れないところで昔からこういう人々の営みがあったということがよく分かりまして、その比重を私は非常に重く受け止めました。ですから、ナチュラルリストの方が色々とお客さんに解説していますけれども、あれは大変結構な、重要なことですが、それに加えて、ああいう中で、この自然の中ではそういう自然の恵みを享受するためにエネルギー源として活用されているとか、あるいは、時として牙を剥く、人間の力の及ばないような災いをもたらすような猛威を被らないように、防災行為が行われているとか、そういうこともきちんと知ってもらったほうが、より自然の大切さが分かると思う。これは1回や2回の体験では無理ですけども、最終的には、お釈迦様の掌で遊ばされて孫悟空が参ったというような経験、そういう心境に少しでも我々が近づけるような体験ができる場になっていけばいいのではないかと考えています。

具体的にどうするかというのは、今、千尋委員がおっしゃったようなことで私もだいたいそういう方向だと思っています。コンセプトとしてはこれで結構だと思いました。以上です。

### 【西村座長】

ありがとうございます。自然の物語、多面的な物語をうまく表現するのがいいのではない

かということ。それでは、ツアーを、地元、現地でツアー事業を実施されていらっしゃるエコロの森代表の森田委員、何かありますか。

#### 【森田委員】

すごく様々なテーマがあるものをブランドコンセプトに落とし込むというのは、すごく大変なことだと思うんですけども、ぎゅっといえば、皆さんおっしゃったように、人と自然が共生しているということ、それに尽きると思う。人がいて、自然があつて、そこに絡む人々がいると、これが色々な物語になっていくというのが、ツアーの時も色々な物語があると常々思っていたので、このようなブランドコンセプトでよろしいんじゃないかと思います。少し文章が長いんじゃないかと思うのですが、コンセプトとしてはこんな感じではないかと思いました。前段の「奇跡の自然と、それに挑戦し共に歩んできた人々の物語」というところが、色々なものを内包しているのかなという気持ちになりました。基本的にはよろしいかと思います。

#### 【西村座長】

それでは同じような立場のJ-WET Adventuresの片山委員、何かございましたら。

#### 【片山委員】

それこそ私と主人が事業を始めるきっかけになった、初めてヒマラヤに行った時に、「あれ、そんなに感動しない」と。富山ももっと、富山のほうがすごいとは言いませんけれども、「意外と富山ってすごいんだ」と感じたものを伝えたいという思いがここに感じられると思いました。あと、この冬も私インドに行っていて、ヨガの学校で400人くらいの世界中の人と話をし、ずっと富山のPRをしてきたんですが、その時に実感したのが、もちろん自然の写真を見たら感動は激しくあるんですが、例えばどんなふうに災害を乗り越えたとか、事業がどんなふうに成功して日本が成長したかという歴史の話をするととても興味を持たれるので、そういうことが実際、その場に行って体験できるというのは、今後魅力的なツアーの題材になるととても強く感じたので、それがここに盛り込まれているのはとても素晴らしいと思いました。以上です。

#### 【西村座長】

いいんじゃないかというご意見です。先ほどもご発言いただきましたけれども、立山黒部貫光の佐伯博委員、何かございますでしょうか。

#### 【佐伯（博）委員】

我々会社としましても、この中にも入っておりますが、今後20年先、30年先アルペンルートがどうあるべきかというのを、プロジェクトを組んで色々やっているわけですが、今、色々検討しているものも取り入れていただいている。例えば、「世界に類を見ない山岳リゾートエリア」というものをひとつのビジョンとしておりますが、そういったことも含めた中でコンセプトを考えていただいておりますので、非常にいいかと。それと、我々の会社、特に立山黒部貫光、アルペンルートを作った佐伯初代社長の思い、「立山の自然をしっかりと守る」、また、「立山の信仰をいかに皆さんに経験してもらえるか」というようなことが大きなひとつの思いで作られたところもあります。特に立山というのは、お客様がここに来ていただいて、これがひと

つの修行の場という思いで、立山というものを開いたということがあります。そうしたひとつの信仰も取り入れた中で検討していただいてコンセプトができておりますので、私どもとしては、非常にまとまっているのではないかと考えております。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。こちら先ほどご発言いただきましたけれども、黒部峡谷鉄道の小橋委員。

#### 【小橋委員】

私も、この言葉、本当によくまとめられて、素晴らしい言葉になっているように思っています。それで、やはり立山黒部というところは、大自然という本当に奇跡の自然と、それから人々の営みというものの調和。そして、それらをさらに磨きをかけて提供することによって、感動や体験を与えるんだらうということなので、まさにこの言葉だと思います。これでいいんじゃないかと思っています。それで我々も今、山田先生にご指導いただきながら、若い子たちが、黒部峡谷鉄道が目指す将来像を今検討しております、その中でも、同じようなキーワードが出てきて進めているところがございます。ぜひ、こういう方向に沿って、参考にさせていただきながら、進めていきたいと思っています。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。県内の委員の方々のご発言が終わりましたので、県外の方々のご発言をいただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。吉田委員お願いいたします。

#### 【吉田委員】

ブランドコンセプトは短くまとめるということがなかなか難しいところで、色々意見を言うとなんか長くなってしまいますけれども、私としては、「奇跡の自然」というところが、非常に1個ぴったりだと思います。それに当然、一緒に歩んできた人々の物語のところ、説明の8ページを見ると、共に歩んできたという中に、立山信仰、立山に対する畏敬・信仰の対象という部分が入っているということですが、このページの説明を見ると分かるんですが、これをなくして、このブランドコンセプトの言葉だけにした場合に、ここに果たして自然への畏敬とか、信仰という言葉が見出せるかと少し懸念があります。というのは、「挑戦し」というもの、つまり黒部ダムだとか、砂防ダム堰堤とか、そういったことは否定するものではなくて、非常に評価できる部分だと思うんですけども、あるいは近代アルピニズムというものも山への挑戦ということだと思うんですけども、その前に、やはり立山信仰というのは、山を挑戦の対象とするのではなくて、山そのものが神であるということで信仰してきた歴史があるわけですから、先ほど佐伯千尋委員がおっしゃいましたけれども、日本らしいところを残していかないと、これから海外の方に見ていただく時に、他の国にもあるのではないかということだとダメだと。そう考えると、今、立山信仰に関するような博物館もできたりして、これからもっともっと、こういったことに関心を持つ方にも普通に、ただ自然の素晴らしさ、風景の素晴らしさを見るだけではなくて、違う面も体験していただけるという可能性があるのに、その部分がこの言葉の中にはあまり出てきてないんじゃないかという感じがいたします。

昨年、筑波大学のほうでユネスコ・チェアプログラムに認定された遺産保護における自然と文化の関係のプログラムでも、海外の方をお招きして、残念ながら立山ではなくて紀伊山地のほうに連れていったんですけれども、修験の方に案内していただいたのでよく分かったんですけども、修験自体は非常に日本の独特なものでありますので、全部を海外の方が理解したとはいえないかもしれないけれども、その背景には自然の大きな山だとか滝だとか、そういったものの自然への畏敬の念は世界に共通するものだということが理解できたとおっしゃっていました。そういうことを考えると、そういった自然への畏敬の念、それから、それを基にした信仰という部分が非常に今後大事だと思っていますので、それがもう少し滲み出る言葉、また「それを畏敬し挑戦し」という言葉が入るといいと思います。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。挑戦というのが、最初に言ったのと比べて、若干言葉足らずではないかというご意見です。ほかにいかがでしょう。伊達委員お願いいたします。

#### 【伊達委員】

頑張って短くまとめられたと思いますが、先ほどのご意見と同じで、少し長いという印象を持ちます。このコンセプト自体は、観光まちづくりマスタープランの上位概念という感じがします。したがって、地域社会、地元の方々が自分たちの思いが詰まっていると感じていただけたのであればすごく正しいものであり、この地域のまちづくり、観光の共通理念になっていると思います。

ただ、ブランディングを考えたときには、それは内部のためのものではなくて、外に向かって表現するためのものなので、言葉を変えることも視野に入れるべきだし、ある種、その道のプロの方にやっていただくことも、予算の中に入れていただいてもよいのではないかと。かつこいいキーワードになれば、若い人たちも未来が見えるような気になるかもしれないし、非常に厳かなものになれば、それ自体がいいということになるのかもしれない。そのあたりの次のステップも念頭に入れてもいいのではないかと思います。

ちなみに、「神々の宿る山」というのはすごくいい言葉なんですけれども、これ自体を使わないのはなぜかと思いました。当然、海外の方にも、旅行先を見るときに、その地域の歴史というものに興味を持たれるわけで、今の大きな流れの中では、歴史的な建物とか、見て非常にわかりやすいものがターゲットになっていますけれども、それに対して、スピリチュアルなものも非常に人気が出てきていると思います。そして、マウンテンビューというか、そういう自然が対象になってくるときに、黒部は神々の宿る山だというキーワードがあると、それはどういう意味だろうとクエスチョンが出てくるからこそ、その深い意味、ストーリーというのもお伝えできると思う。そういう意味で、どうやって短い言葉で相手を惹きつけるのか、そして興味を持って相手が食いついてくれるのかを一言持ってこられると、ブランディングになってくるのではないかと思います。

あと、少し違う話をしますと、最初に参考資料で今年の旅行の動向がでてきたんですけれども、国内の方が減った分、海外の方が増えることによってカバーされています。今後、この比率であるとか、海外のお客さんをどのくらいにしたいのであろうかというのが、過去に出てきたのか分からないのですが、今は3対1ですけれども、これを1対1くらいまでもっていく

ことを念頭にされるのか否かによって、まちづくりや観光の今後のあり方が変わってくると思う。さらに国別で見ますと、どのエリアも同じ例がありますけれども、アジア系が中心になっているわけですが、欧米系をどのくらい増やしていこうと思っているかによって、好みが変わってくるのではないかと思います。

そして、これだけ増えてきているわけですが、何故ここに来ているのか。そして、どんな感想を持っているのか。欧米系が伸びていないのなら、なぜ伸びていないのかという調査をそもそもされているのかどうか。そこで出てきた知見を100%受け止める必要はないですが、今後自分たちがやっていこうと思うキーワードと一致しているのかどうかという、少し客観的なチェックもしていく必要があると思います。

参考にたくさんの観光資料がここにあるのですが、1つも海外向けのものがないので、どう表現されているのかも気になりました。これから海外の方をターゲットにしたいのであれば、海外の方の視点で、それでいて自分たちの考えるこの地域の誇りをどう表現していきたいのか。それこそ世間一般にナイトライフがないから嫌だといわれているけれども、この地域ではそういうことではないと。では違うものでどんなものが本当に心を打つのか。それを用意してから、違いますと言ってほしいわけですが、必ず用意しようというところまでもっていくべきだと思います。

そういう意味では、7、8ページまではこの地域の写真で、9ページから突然ガラッと景色が変わったと思ったら、全然外のもので。協議をし始めた7月頃ならばそれでいいと思うんですけども、もう数ヶ月も経ったのだから、議論した結果、自分たちの地域でこのイメージのところを見つけてほしいと思います。そうすると、もう少し地元のご意見も違ったと思う。基本的に私も外資系と色々なことをやりますけれども、100%そうしたネタを持ってこないで、その地域のよさを引き出しながら、海外のよさもミックスして、海外の方が来ても感動する、日本の方が来ても感動する、若い人が来ても感動する、そのエリアのことを知っている方が見ても、新しいものもできたしその地域のよさも理解してくれて嬉しいと思ってくれる。そういうものがいいと思います。

ここまで来ただけでもすごいことですが、もう一歩先に前進する意味では、少し柔らかく捉えて展開できたらいいと思います。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。もう一歩やることがあるんじゃないかということ。それもここまでやれたから言っただけなのだと思います。ほか、いかがでしょうか。モンテベルデ委員。

#### 【モンテベルデ委員】

ブランドコンセプトとして、よいとりまとめだと思います。僕が加えたいことは、例えば、ヨーロッパですと16世紀とか17世紀の古いお城や建物がたくさん残っていますが、現在はホテルとしての設備を作っていて、泊まることができます。そのような考え方が日本にはないのだと思います。日本では、残っているお城とか神社には泊まれないし、お寺は泊まれても、設備が十分でない。僕は内閣府にも同じ意見を言ったんです。日本の歴史を外国人に体験してもらいたい。だから、そのためには、政府のサポートが必要になるんです。

例えば、お城の中の一部分を、日本ではたぶん考えられないかもしれないけれども、ホテル

として利用する。例えば、大阪城や名古屋城を。今はまだ日本で考えられていない。もしできないのだったら、お城の敷地の中にアネックスとして新しく建てて、そこに泊まってもらう。あるいは、神社の敷地の中に同じような形のものを作って、そこに泊まってもらう。そうしたことが、ヨーロッパに行くときにはとても魅力的。16世紀の王様が住んでいたお城に泊まれる。フランスやポルトガル、スペインにたくさんあります。スペインやポルトガルには政府からの働きかけが50、60年前にあった。もうボロボロになっていた古い建物を直して、ホテルとして運営していきましょうと。それはとても貴重な体験になります。日本でも同じことをできないことはない。

京都や日本のあちこちには、とても伝統的な建物や旅館がある。例えば、京都の旅館では、食事を出すのがヨーロッパと比べると高く、1人10万円払わないと泊まれない。でも、ヨーロッパだとだいたい、スペインやポルトガルでしたら2万からある。2人泊まれて、食事はつかないけれどもお城の中に。13世紀のお城の中に8部屋しかないけれども泊まれる。

僕が大切だと思うのは、富山の歴史を最低限ひとつつなぐこと。すごく立派な建物があっても、歴史をつながないとダメです。そうした建物を、たくさん部屋はなくても、30部屋でも50部屋でもいいので、外国人の誰でも泊まりたくなるようにしたい。予約がとれなかったら他のところに泊まるんですけども、すごく外国人がそこに泊まりたいと。そして、泊まりだしたらこぼれるんですが、それが日本にはなかなかない。

さっき佐伯さんが言っていましたけれども、海外からそのままポンと持ってくるのではなくて、日本にも素晴らしい建築家がたくさんいるのだから、今、日本の歴史の伝統的なこと、建築を守って、神社とかお寺とかのとなりに建物を新たに作って、ホテルとして使う。

立山に行ったら、ホテルはたぶん50年前に建てたんでしょうけれども、コンクリートであまり魅力的じゃないんですよ。どこでも、一番いいところでも。だから伝統的な、本当にみんな泊まりたい、体験として、できればその自然を生かして、日本にしかない泊まれる設備を作ってほしい。設備は、トイレとかスマホとか、今の日本は最高だからそれでいいと思うんですけども、それは隠して建てればいいと思います。それが、私のオススメです。よろしくお願ひします。

### 【西村座長】

レベルが高いものにはニーズがあるという。そろそろ時間ですけども、この議論はやっていると延々と終わらないので、この辺で締めたいと思います。

最後に、山田さんと田村長官に発言いただいて、一区切りということにしましょう。

### 【山田（桂）委員】

ブランドコンセプトの考え方は、他の委員の方々がお話されていますが、ただ、コンセプトということで、今後、その将来に対して、特に地域の方が共通して持つ項目の、その中のキーワードを入れた言葉としては、私はこれでまとまっていると思います。特に、もともとこの立山黒部だけではなくて、県が考えています総合計画の中の「人が輝く高志の国」というベースの基に、活力、未来、安心のふるさと化をしたいという考え、ここには表現されていませんけれども、私はそれがベースになってこのコンセプト案が出てきているんだろうと感じております。あと、ブランドとして売り出すときの、細かい仕様に関しては、先ほどお話がありま

したけれども、サブテーマ、サブコンセプトを作ればいいんじゃないかと思います。

立山黒部だけではなく、県内の15市町村の方々も非常に納得ができるような言葉にまとまると私は思いますので、非常に立派でよく考えていただけたんじゃないかと思っております。

#### 【田村委員】

結局、観光地域づくりの主役というのは地域の方でありますし、その方々がある程度納得感を持って共有できるものであればいいんじゃないかと思います。他方で、さっき伊達委員も色々とおっしゃっていたようなことはたくさん必要でありますし、結局、日本人にとっても、これまで色々観光の世界で提供されてきたサービスというのは、ある意味、なんて言うんでしょうか、飼いやられているという変ですけども、こんなものと諦めている部分というのがあって、本当はもっといいものを提供できるはずなのに、日本人としては期待値を下げて、こんなものかなと思ってしまう部分が結構あるんですよね。ですから、そういう意味で、昔ながらの色々な、提供されている商品・サービスというものは、改善していかなきゃいけないものはたくさんあるんです。ただ、そういうものは色々、先ほど山田さんもおっしゃいましたけれども、サブコンセプトになるのか、あるいは、それぞれのマーケティングのためのキャッチフレーズになるのか知りませんが、それは別に、そのターゲットごとにちゃんと考えると書かれておりますから、そういうことで、きちんとやっていただくということであれば、この大きな意味でのブランドコンセプトは、地域の方が共有できるものとしてよろしいのかなという感じをいたしております。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。たくさんのご意見いただきましたが、基本路線としてはこれで良さそうだとすることが大半であったと思います。ただ、自然が持っている畏敬だとか、スピリチュアルな面だとか、海外から見るとどうアピールするかということに関しては、ご意見がありましたので、どこまで改善できるかはありますけれども、事務局とやりとりさせていただいて、改善できるようであればやると。基本路線はこれで、これに何か付け加えるということを進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 【江崎委員】

コンセプトはこれでいいんですけども、ビジョンのほうは少し根本的にどうか。ブランドコンセプトと一緒にビジョンが書かれているということは、このビジョンはブランドとしてのビジョンを言っているかだと思います。そうすると、「訪れる度に味わえる感動」というのが、「訪れる度に」とか「買う度に」得られる価値という、それは「お客様との約束」という、ブランドという言葉の意味そのものなんです。すると、そこをわざわざ説明している感じがする。それでどうなんだと、当たり前の言葉がそこにわざわざ書いてあるだけで、将来に対してその価値が深まるとか高まるとか、そういう感じが全くこのビジョンにない。一見まとまっているように見えるけれども、それでいいのかと思いました。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。ここまでいただいた議論もほとんどの方が前半部分の議論で、前

半部分はいいんじゃないかというお話。後半部分はあまり議論がなかったので、もう少し考える必要があるのかもしれませんが。今の江崎委員のご意見も含めて、若干努力するという事で、今後の作業はできれば座長に一任していただければと思いますけれどもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、そういうことで、もう少し宿題があると。また、今後は、これをそれぞれのターゲットごとに色々とアピールするところは、プロの専門家、言葉の専門家を入れて、うまく刺さる言葉を使っていくということを当然やることになると思います。その時にご報告させていただきたいと思います。

## (2)「立山黒部」世界ブランド化に向けたプロジェクトの進捗等について

### 【西村座長】

それでは次に、世界ブランド化に向けたプロジェクトの進捗報告ということで、事務局から報告をよろしくお願いします。

### (事務局より資料2に基づき説明)

### 【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、まず最初に、8ページから9ページにあります関西電力の黒部ルートの見学会について、議論を始めたいと思います。これまでも関西電力のほうから前向きに検討する旨の発言があったところでございます。またその後も、県と関西電力とで協議を続けられてきているということで、この件に関しまして、石井知事からコメントをいただければと思います。

### 【石井知事】

ありがとうございます。

関西電力さんの黒部ルートの見学会の一般開放ですとか旅行商品化につきましては、先ほど説明がありましたように、この工事の竣工後はこれを公衆の利用に供するということが国の許可条件にあったこと、また、黒部ルートの土地は現在でも国有地であることも踏まえまして、現在、関西電力さんと私どもとの間で、旅行商品化の実現に向けて、その人数枠を、現在の公募見学会は2,040人ですけれども、安全確保を前提としながら最大限拡大する方向で、前向きに検討を行っているところであります。また、この協議がまとまりますと、関西電力さんは、安全対策に数年、5年くらいかかるんじゃないかとおっしゃっていますけれども、それまでの間も、できるだけ早く多くの皆さんに見ていただく機会を作りたいということで、新年度の公募見学会について、これまでは平日だけで、土日は社客枠となっていたんですけれども、新たに土日祝日にも一般の方向けの見学会を実施できないか、今、協議を行っていますし、また、再来年度以降、旅行商品化が本格的にできますまでの間も、一般公募枠を順次拡大できないかといったことも含めて、今、協議を行っておりますし、協議が整えば、具体的な日程等について、いずれ発表させていただきたいと思っております。国の観光立国の観点もございますから、そういう観点からも重要なプロジェクトでありますので、黒部ルート見学会の一般開放や旅行商

品化の実現、人数枠の拡大、また、公募枠の拡大や土日祝日の実施、こういった件は、今申し上げたように来年度から実施できることもございますので、極力、早期に前向きな結論がとりまとめられますように、関西電力さんと鋭意に協議をしっかりと進めてまいりたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、少し蛇足になりますが、ブランドコンセプトで少し議論がありまして、「神の山」とか「畏敬の念」といったような、大変貴重なご提言もいただきました。このブランドコンセプト、色々な要素を入れるとどうしても長くなり、今でも長くなってるんですが、こういった点は、例えば、富山湾は「世界で最も美しい湾のクラブ」のメンバーとして4年近く前に認められましたので、来年、富山県で世界で最も美しい湾クラブの総会をやってもらおうということを目標にして、来月4月のフランスの総会に出ることにして、私プレゼンもやるんですけども、例えば、そういった際には当然、立山黒部の魅力のひとつとして、まさに大伴家持が「立山は神の宿る山だ」と歌っているわけで、万葉集にあるわけですから、そういったことのご紹介も含めて、立山黒部の海越しの立山、富山湾の魅力と同時に、立山黒部の様々な魅力をしっかりとアピールしてまいりたいと思ひます。

また、モンテベルデ委員さんから、古いお城とか、お寺とか、神社を宿泊場所にできないか、あるいは、その近くに模したものを作ったらどうかという話もありました。貴重なお話として、勉強させていただきたいと思ひますが、現在、富山県では、例えば、合掌造り集落、これは日本独特で大変魅力のあるものですから、五箇山を中心にそういうものに宿泊できるように、改修も最小限で、あれはもう世界文化遺産になっていますから、あまり変な改変はできないんですけども、宿泊もできるようにして、最近はずいぶんと、アジア系の方たちだけではなくて欧米の方も喜んでお泊まりになっていますし、それから富山県でいうと、同じ五箇山に近い井波とか八尾、こういったところに古い町並みとか町家が残っていますので、例えば古い町並み、町家の良さを残しながら改修して、外国の方にお貸しすることを始めております。例えば八尾では、実際に今までよりも飛躍的に欧米の方の宿泊者が増えてきておりますし、これを活かしながら、八尾の町全体を、例えば、その古い町家に泊まる人は、基本は食事は出さないで、食事するのは八尾の町のそれぞれあるお寿司屋さんや居酒屋さん、色々にご紹介して、そして、八尾の町全体をいわば平面的なホテルにする「平面ホテル化構想」という、これは西村先生がご存知ですが、「とやま観光未来創造塾」の原井塾生が、こちらは山田拓さんのご指導も受けておられまして、そういう動きも既に県内で行っております。今日いただいたご意見も参考にさせていただきますので進めてまいりたいと思ひます。以上です。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。

では、この件につきまして、今日は関西電力の岩根委員の代理として岡田執行役員総務室長がおいでになっていますので、コメントいただければと思ひます。

#### 【岡田委員代理】

関西電力でございます。この件につきましては、今、知事がおっしゃいましたとおり、富山県さんと鋭意協議を重ねているところでございます。私どもは長年、地域の皆さまにご協力、ご理解いただきながら、水力発電事業を運営してまいりました。こういった立場から、観光の

振興や地域の発展のために、これまでも色々な取組みをしてまいったつもりでございます。今回の旅行商品化につきましても、基本的にできるだけ協力をしてまいる考えでございます。

具体的に検討していくうえで考えていることが2点ございまして、1点は「お客様の安全確保を大前提に」ということでございます。委員の皆さま方にご指摘いただきましたとおり、黒部の自然というものの厳しさを甘く見てはならないということは、改めて私どもも肝に銘じなければならないと覚悟しているところでございます。多数の一般観光客の方をお迎えするうえでは、万が一にも事故が起こらないよう、ハード・ソフトの両面での安全対策、あるいは、安全確保されるような人数の設定などを考えてまいりたいと考えております。それからもう1点は、「私どもの水力発電事業と両立する範囲で実施をさせていただきたい」ということでございます。ご案内のとおり、この発電所は、秘境地下の発電所でございます。上部軌道、インクライン、それから黒部トンネルといった限られたルートでしかアクセスできません。厳しい自然条件の下で、最低限の設備を設置し、メンテナンスさせていただいているもので、輸送量はごく限られているということでございます。この設備および輸送力は、発電設備の保守、工事のために利用しているものでございまして、お客様をお迎えするうえでは、それに支障にならない範囲内で具体的検討に入りたいと考えております。

前回会議で委員の皆さま方から、富山県さんと胸襟を開いて協議をするようにというようにご指摘も頂戴し、また、鋭意協議を進めてきまして、今般、安全対策の必要性につきまして一定のご理解を得られましたので、具体的な協議に入っているところでございます。実現に向けて色々な課題がございますけれども、鋭意協議を重ねてまいりたいと考えております。以上でございます。

#### 【西村座長】

どうもありがとうございます。今後の協議が進むことを期待いたします。

冒頭、日本ICOMOS国内委員会の「20世紀遺産20選」というお話が出ましたけれども、今、世界の各地区の国内委員会で、20世紀遺産の20選を選びなさいということで各国が選んでいる。日本も3年くらいかけて20選ぼうということを議論したんですけれども、色々議論していくなかで、やはり20世紀最大の技術革新は土木だと。巨大なスパンの橋やトンネル、そういうものができてきて、世界で見るとすごいということで、土木的な遺産が非常に多く選ばれている。そのなかで20選んで、1番世界遺産に近いといいますが、世界に行って戦えるものから順番に並べたら、3番目と4番目に、たまたまですけども富山県の2つが入っているということです。1番、2番は何かというと、1番は上野公園、これは境内が公園になっていて、世界遺産もそこにあるということで、2番目は代々木の体育館で、これは有名な建築家が、作ったという趣旨ではなく、巨大なスパンの構造物ができるようになった傑作だと。3番目、4番目が富山県で、その次は、瀬戸大橋、青函トンネルと続く。そういうものの中で、2つ富山県さんから選ばれるというのは、ほかに例がない。それだけ厳しい自然と、その中でレベルの高い土木工事が行われたということだと。砂防と発電、自然とが一体となった発電事業ということで、ぜひこういうものがアピールできるように、その価値がアピールできるようなことが実現するとよいと思います。

さて、それではこの件も含めまして、他のプロジェクト全体に広げて議論させていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。はい、吉田委員。

## 【吉田委員】

吉田です。私からは主に2点申し上げたいと思う。

1つは5ページの滞在プログラムの充実の中の、エコツーリズムの部分。エコツーリズムに関しては、国内で様々な研究室があつて、世界遺産のなかでも、知床とか小笠原諸島とかの場合には、ガイド付きでないと入れないというような地域があつたりといった例もありますし、それから屋久島とか白神山地だと、ガイドの登録や認定といったものにあたって、ガイドが研修するためのテキストブックをちゃんと編集している。屋久島の場合は、「屋久島検定」という形で使っていくということもやっております。そういったいくつかの国内先進地の視察も考えていらっしゃるようですけれども、そういったことも含めて視察してこられるといいんじゃないかと思ひました。それから、他の海外の例ですと、私はオーストラリアの世界遺産地域によく行くんですが、オーストラリアの場合は、エコツーリズム協会があつて、エコツーリズムオーストラリアという団体もあつて、エコツーリズムも色々段階があつて、環境に配慮する段階から、かなりレベルの高いガイドを提供するところまで、ネイチャーツーリズム、エコツーリズム、それからアドバンスエコツーリズムと、3段階くらいに分けた認証などを行つています。そういったこともぜひ研究されて、取り入れていかれるといいんじゃないかと思ひています。それが1点目。

2点目は、これは自然保護に関係することですけれども、参考資料5のほうで、NPO法人の立山自然保護ネットワークさんのほうから意見書が出ておまして、特に早い時期からの開業とかロープウェイの建設については、非常に納得のできる意見もあるかなと思ひます。今日ご説明をうかがつて、ロープウェイに関しては、立山ケーブルカーの現状などもうかがつて、それに代わるものとして検討が必要ということは、今日のご説明でかなり力を入れて、ドローンの写真も入れて説明されたところですが、もちろん、まずは生態系や景観への影響を考へることが非常に大事だと思ひます。美女平とか、大観台までの代替手段を考へるというのは分かるが、そこから先の弥陀ヶ原までゴンドラで行くというのは果たして必要あるのかという感じはいたします。それが単に環境影響をクリアしたとしても、どんどんどんどん、こういう山岳の観光地を便利にしていく方がいいのかということと少し関係あるんです。少し話が別の場所に移つて申し訳ないんですけれども、例えば、つい先週、富士山の研究所の会議があつて、富士山の方々から、特にアジア系の観光客の方ですけれども、5合目から上に登ろうというのに、Tシャツに数百円のポンチョのような雨具で、足元は革靴みたいなもので登つていこうとする人が結構いて、それを止めるのに大変だったというお話もうかがいました。そんな話をうかがつて、家に帰つてきたら、ちょうどその日に奥多摩の三頭山で登山客による事故があつたという話がありまして、それも中国系の方だったと思うんですけれども、なんでそんなことになるのかと聞かれたんで、中国の場合は、世界遺産になつていても山頂までコンクリートの階段で上られるようにしていたり、あるいはロープウェイで行けるようにしている。そのことが、観光客がそういったロープウェイとか、あるいは登山道であっても全部コンクリートで舗装されているのが当たり前と思つてしまつているという問題がある。私も実習なんかをやる時に、中国からの留学生には、登山靴と雨具だけは命に関わるんだからちゃんとしたものを買いなさいと言うんだけど、そういう認識が全然ないんです。もう、全部整備されているのが当たり前と思つている。それが日本はそうじゃないんだと。少なくとも日本の山はそういうも

のじゃないということはちゃんとやらなきゃいけない。むしろこちらが言っていかなきゃいけないと思う。そういったことを考えると、全て便利にしてしまうのがいいのかということ、私は少し疑問に思います。ということで、ロープウェイについてはまだまだ検討段階で、環境影響評価もこれからの段階だと思えますけれども、その辺はご検討いただきたいと思えます。

少しご参考までに、携帯電話に関しても、ここに関しては色々と災害の問題もあるので、携帯電話が通じるようにしたほうがよいというのは分かるんですが、例えば日本の国立公園、同じラムサール湿地である尾瀬などの場合には、山小屋周辺のみ携帯電話が通じる。これも、そこまででも相当議論があったんですけれども、普通の木道を歩いているときには通じないが、あえてそうしている。それは、日本人はあまりずっと携帯電話で話しながら歩く人はいなくてどちらかというとメールに使うんですが、アジア圏の外国人の方はずっと話している。そうすると、本当の山の静けさを味わいたいという、それが妨げられてしまうということもあって、沢山の長い協議のうえで、そういうことをやっている場所もあるわけです。そういったことも考えて、全てお客さんのために便利にすればいいのかというのは、必ずしもそうではないのではないかと思います。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。

ロープウェイの件に関しましては、今日はオブザーバーですけれども、環境省の国立公園課の田中課長がおいでになっておりますので、少しコメントをいただければと思います。

#### 【田中オブザーバー】

環境省の田中でございます。資料2の13ページを見ながらご説明をさせていただきたいと思えます。環境省の環境行政に、日ごろからここにお集まりの皆さんに大変お世話になっていることに関しまして、まずお礼を申し上げたいと思えます。そのうえで、この素晴らしい自然をしっかりと保護し、これがゆえに多くの方が利用のために集まって、そして、利用者の負担を持って、地元の雇用ですとか、経済とか社会の向上につながり、それがゆえにまたしっかりと保護して、将来の利用にもしっかりと引き継いでいくという好循環を引き継いでいくことが重要だと思いますから、そういう観点から3点お話させていただきます。

1つ目は、ロープウェイの建設の想定ルート①、赤の部分でございますが、これが経由するような立山の弥陀ヶ原地区については、ラムサール条約登録湿地でもある国立公園の特別保護地区であり、特に厳重な景観の維持を図る必要がある地区と、その周辺で特別保護地区に準じる環境で、特別地域のうちで風致を維持する必要性が最も高い地域であり、現在の風致を極力維持することが必要となっている第1種特別地域でございます。これらの地域においては、以前から申し上げておりますとおり、ロープウェイ等の新設は認められません。それからこの右の方からまいりますと、想定ルート①のゴンドラリフトでございますが、大観台駅から弥陀ヶ原駅の間は、弥陀ヶ原の台上に、見た目のボリュームのあるゴンドラリフトを敷設する計画で、仮に道路敷等を活用して自然植生を改変しないようにしたとしても、眺望景観の保護の関係からも大きな影響が懸念されます。また、称名滝駅から大観台駅の間ロープウェイの案でございますが、新たな起点・終点の両方にターミナル施設の設置による環境影響、それからビデオにありましたけれども、称名滝の眺望をロープウェイ自身が邪魔をするような位置取り等、環

境配慮について大きな問題があると考えております。さらに一番左のところの点線のところでございますが、称名滝に向かう道路についても、昨シーズンは落石により7月中旬まで通行が制限されていたと聞いています。安全な通行を確保するため、ロックシェッド等、多くの景観を害する工作物の設置が必要になってしまうということが懸念されます。加えて、冬期も利用することになれば、落石に雪崩を加えた利用者の安全確保、それからライチョウに代表される自然環境への影響の懸念から、これも反対でございます。

2つ目でございますが、一方で、老朽化したケーブルカーの代替施設として、より環境影響の小さい位置においてロープウェイを設置することについては、可能性はありえると考えております。ただし、あくまで既存のケーブルカーの更新を行った場合よりも、環境影響が小さいものであることが必要です。そういう意味で申しますと、13ページの想定ルート②の黄色のところは、今後の検討次第と考えておりますが、より環境影響が小さいものに当てはまる可能性は高いと現時点で思われます。もちろんよりよいルートが他にあるかもしれません。来年度、ロープウェイの建設に関する環境調査を行うとお聞きしておりますが、環境省として建設を認める可能性は極めて限定されることをご理解いただいたうえで、問題点を的確に絞り込んで、十分な検討を行うために必要な調査を行うようお願いしたいと考えております。既存のケーブルカーの老朽化の実態をお聞きすると、ロープウェイの必要性がないとは言いません。しかしながら、実現を目指すのであれば、適切な立地、必要十分な規模、より環境影響の小さい現実的な計画にシェイプアップする必要がまず重要だと考えておりますし、そうすることで、むしろ環境負荷を減らすような計画にすることが重要だと考えております。

それから3つ目は、お礼でもございますが、資料2の5ページ目でございますけれども、昨年の11月から、国立公園満喫プロジェクト展開事業を、富山エコツーリズム研究会、ガイドの皆さんや地元の観光業者の皆さま、地元の行政機関の皆さまと一緒に、この貴重な観光資源、地域の財産でもある立山の自然をしっかりと後世に引き継いでいけるよう、そして多くの方々に立山の素晴らしい自然を体験してもらおうという、大変意義のあるプロジェクトについてご協力をいただいております。2年間の取組でございますが、立山の自然と立山信仰等の文化を活用した新たな滞在型のプロジェクトの開発を、当省としてもしっかりと展開したいと考えております。関係者の皆様と連携しながら、適切な利用を活発化させていきたいと考えておりますので、引き続きのご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

#### 【西村座長】

ありがとうございました。それではいかがでしょうか。山田桂一郎さん何かありますか。

#### 【山田（桂）委員】

各委員のご指摘された部分、特に懸念材料等々はそのとおりだと思いますので、引き続き色々な調査も含めて、この会議だけじゃないところで、色々なことをやっていかざるをえないと思います。

3点ほどですが、6の滞在プログラムの充実に関しましては、これは関係者の皆さんが方向性も含めて理解されていますので、どんどん進めていただきたいと思います。特に今回、昨年7月の知事のご視察と、先月のTKKさんと県職員の方の研修も踏まえて、現地でも十分見ていただきましたが、このように報告書になりますと、何をやったかやらなかったかが出てきて、ど

のようにやったか、HOWの話が全く出てこないものですから、その辺を委員の方々にもう少しご理解いただかないとだめかなと。また、WHATとHOW以上に、WHY、なぜやるかという部分に関しては、まさにこれは立山黒部のブランド化だけではなくて、県ひいては国の観光施策で、もしくは今後のあり方に関して寄与していかなければならないところだと思います。特に先ほど申し上げました県の将来像の中に、活力、未来、安心のふるさとづくりということで、安心して住める県民生活ということで、まさに活力、未来を創っていかざるをえないんですけれども、先ほどから自然を守るということも含めて、これは重要なことなんです、最終的には人の生活というところを抜きには考えられないですし、実際、ツェルマットもそうですけれども、町で稼がないと環境を守れないんですよね。そういう部分では、この辺は非常にバランスをとっていくのが難しいんですけれども、ツェルマットでは、環境を守るのも、経済活動を活発にするのも、最終的には住民の幸せと社会の豊かさを目指しているというのは間違いありません。そういった部分では、もう少し、できればこの辺を委員の方々にご理解いただいていると思うんですが、ご説明いただくことがあってもよいのではないかと。そうすると、私の場合は、稼ごたい方には、もっと自然環境を含めて生活文化を守れと言っていますし、守ってほしい方には、その維持管理を含めてもっと稼ぐことも忘れちゃいけませんという話になり、非常に難しい判断にはなってくると思いますが、今回の話の中では、できない理由とか方法、手段論を含めて、排除していくのではなくて、ひとつでも多くの可能性を見出しながら前に進めるということをやっていたらいいのではないかと思います。

あと、今後、先ほどのプロジェクトだけではなく、滞在プログラム、黒部ルートの見学会もそうですけれども、できるところから、特に商品化というのは、時間的な部分、今後の安全対策、特に黒部ルートはあるかもしれませんが、現状のままでも、実際にお客様や社客の方に来ていただいていますから、土日祝日とか人数の順次拡大といったやれるところから前向きにやっていただきたいと思います。

滞在プログラムの方に関しましては、リピーター獲得というところで、戦略的にやっていただきたいんですけれども、このあたりはTKKさんや黒部峡谷鉄道さんに、特にお客様の顧客生涯価値、CLVを獲得するためには、CRM、顧客管理、顧客との関係というところをしっかりと戦略として位置づけていただく必要があると思います。手短になりましたが、以上でございます。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。それでは、他の委員の皆様はいかがでしょう。伊達委員、よろしく願いいたします。

#### 【伊達委員】

色々アクティブなものを集めてポータル化されたり、様々な努力をされていると思いました。今、マウンテンリゾート、アクティブリゾートというのでしょうか、エコツーリズムを含めて、そういうもののニーズが欧米系の方に強くあると言われていています。先ほどのスピリチュアルなものとは別に、精神的なものに対して同じ遊びでも世界中の色々なところで遊びたいという欧米系のニーズがあって、それを日本はまだ上手く取り入れられていないと思う。そういう意味では、受け皿になりえるのではと思います。そう考えると、先ほども議論に出た中国人のマナーという話もありましたけれども、マーケティング理論でも同じですが、欧米系を先に押さ

えて、その地域のルールを作りながら、欧米系のライフスタイルに追随するアジア系が来るようなマーケットの戦略をもう少し持っているとういと思ひました。

また、富士山の話でも出ましたが、入山するところというのは入口が限られていると思うんですけども、なぜ、そこで全てをルール化しないのかというのが私の疑問です。有料であつて当たり前でいいのではと個人的には思うんですが、確か任意になりましたでしょうか。まずは有料で、いるべきものを持っていないとそんな格好では行けませんと、ない人はそこで買ってくださいと、それぐらい明確なルールにしまえばよいだけであり、そうなるとツアー会社も事前に説明をしてくれるので、ある程度の装備をした人しか来ないはずだと思う。とんでもない人が来るからダメではなくて、来ないような仕組みを作っていくことももう少し考えられるのではないか。それを各地でやればよいと思ひました。

もうひとつ、インフラとしてのロープウェイのあるなし論に関しては、映像を見る限り、「神々の宿る山」がここにあつたという感動を受けます。本当に素晴らしいものを体験できるのではと思ひました。基本的に全ての人々がそうですが、禁止されているところほど、そこが開放されれば、人は集まり初めての体験ができるというのが現実にある。それとの調整だと思ひますが、非常に難しい問題だと思ひます。そもそもこのエリアの歴史として、自然と人間の共生の歴史だつたと思ひます。先ほどの先生の話にあつた、近代建築技術によって近代化されて、自然の中で自然を守りながら、新たなものが作られながら現代に至つたという歴史を考えると、次のチャレンジとして、自然と人間の共生の歴史をどんな形でこの場所で作っていくのか、そしてそれは必ず自然と共生しなければならないので、そういうものは守り、でも地域のためにその場所を最大限に活用して、魅力を見出して豊かな生活になるのがこの地域の人たちのタスクだと思ひます。そういう方向に持っていかなければならないというのが、本当は共通の理念として一番重要なところじゃないかと思ひました。

あと、私は観光地を作るためには、やはりインフラ整備が必要だと思ひます。その時に、ケーブルカーに代わつてロープウェイやゴンドラという新たな輸送手段ができるというのは、非常にポジティブだと思ひました。通信インフラも、規制してもいいという理念、理屈も正しいと思ひし、今となつてはそれがないと人間は生きていけない状態にもなつているので、そういうものもそろえないとホテルとしての立場が難しいと思ひました。移動中まで必要かは分かりませんが。

商品開発が進むことは非常にポジティブで、一方、自然景観がすごく守られているというのはここはできていると思ひます。滞在するエリア、町の景観がどのようになつているのか見たことがないので分からないですけども、そのあたりをこのエリアでやりたいコンセプトに基づいてされたらいいと思ひます。ただ、先ほどの知事のお話で、町まるごとホテルというお考えもお持ちで、そういうことも進んでいるということも考えますと、きっとそのエリアが、その場所らしさを醸しだすものになつてきているんじゃないかと思ひ、それはすごくいいことじゃないかと思ひます。

そのうえで、13ページ、実現されるされないは分からないですけども、思つたのは、そもそも滞在日数というのがどのくらいで、それがこういう周遊ルートが増えることによってどのくらい増やしたいと思つているのか、その結果、どういったところが宿泊、滞在途中のエリアになるのか、それとも日帰りで帰ってくるのか、そういった目標も考えながら、ある種の投資になるはずなので、投資戦略が実現できれば、現実の旅行者数、滞在日数が増加し、その結果、

滞在や宿泊に落ちますし、飲食やお土産にも落ちてくる。コストの利用料金が落ちることによる経済的な効果まで踏み込んでいけると、観光戦略としての目標が立ってくると思います。

#### 【西村座長】

ありがとうございます。渡辺委員、お願いいたします。

#### 【渡辺委員】

黒部ルートの見学会について、少し話が戻るんですけども1つ2つ。

知事がおっしゃられたことの繰り返しになりますが、ルート見学会、一般開放、旅行商品化されることで、今、前向きにそういった方向性で議論が進められている。12月のワーキングでもそういった話があったかと。これは大変素晴らしいことだと思います。もしこれが実現すると、大物の観光地になるんじゃないかと思っています。大物って言い方が適切かどうかは分かりませんが。

財団法人日本交通公社が、観光地・観光資源のランキングをやっています。ご存じの方もおられるかもしれませんが、その中でこれはおそらくAクラスか、あるいはその上の特Aクラスになるんじゃないかと思っています。こういった上位クラスの観光地・観光資源のひとつの特徴として、遠方からお客さんが呼べるということが定義されています。先ほどからインバウンドの話もありますけれども、インバウンドの方々にとっても、この黒部ルートの旅行商品化は大変魅力的なものになるかと思っています。インバウンドは、伊達委員からもお話がありましたように、経済効果が非常に大きく、特にこの商品はリピーター向けになるかと思っています。先週だったか、観光庁さんのデータで、インバウンドのリピーターは消費額が大きいというデータが出たかと思っています。そういう意味から考えても商品化は、関西電力さんのご助力だと思うんですけども、富山県への経済効果は非常に大きいかと思っています。

先ほどのご説明にあったんですけども、富山県に対してのご貢献はその通りだと思うんですが、この旅行商品化、一般開放化によって、さらにこういった経済効果、遠方からの、インバウンドからのお客様が来るという意味でも、そういった経済効果、県に対する経済効果が非常に大きくなるのが期待できるんじゃないかと思っています。やがて旅行商品になる、今日の資料のチラシにあるような旅行商品の中に入ってくる、あるいはネットで販売できるというのは少し時間がかかるというのはごもっともだと思います。そのうちのひとつ、対策といいますか第一歩として、土日祝日の開放が今日もメンションされていましたが、そういう意味では、こちらの方は一刻でも早くというとはなはだあれなんですけれども、本当にもったいないという気が非常にいたします。色々な課題があるのは重々承知で、ご説明もいただきましたけれども、一刻も早く、さらには一般見学の枠を拡大して、土日あるいは抽選方法等も改善していただき、最終的には旅行商品化につなげていただき、県への経済効果の拡大などにつなげていただきたいと思っています。

#### 【西村座長】

少しお時間がオーバーしておりますが、江崎委員。それでは最後の発言ということでよろしくをお願いします。

### 【江崎委員】

黒部ルートについては、県の方からやりたいという話だと思うんですけども、それに対しての県の協力体制がどうなっているのかというのがこの表現の中では見えません。これを進めていくことに対して、県としてはどういう協力体制やメニューを考えているのか、具体的な措置を考えているのかということが見えれば、県からの一方的なものではないと思うので、そういう表現にしてほしい。

また、先ほどドローンの素敵な映像を見せていただいたんですけども、ロープウェイに乗っている人からだけの視点なので、やはりそれ以外の人が見たときの、既存の展望地からの景色がどうなるのかというのも一緒に出していただくと、不平等がなくなると思います。私としては、地元の鳥羽に公共物がいっぱい建てられてきた中で、そういうものをなくしたり、デザインを皆で考えるという取り組みを行ってきた経緯もあって、例えば、高潮堤ができて海が見えなくなってしまったときに、工事を一回県のほうで止めて、地元の人が入って、高潮堤をなくすことはできないが、それをどうしていくのかというデザインを考えたこともある。その時に考えたのは、一番大事なものを、一番大事な景色を見せたかったら、それを邪魔しないデザインにする。それは重要な視点だと思うので、一方から見た話ではなくて、どちら側からもちゃんと見た視点で説明していただければ、もう少し考えられることもあったと思います。ありがとうございます。

### 【西村座長】

ありがとうございます。「エッフェル塔で見る景色が一番よいと感じる、なぜならエッフェル塔が見えないからだ。」と言った人もいますんですけども、そういうことにならないように。時間も押しておりますので、ここで議論は終わりしたいと思います。

最後に、石井知事に一言いただきたいと思います。

### 【石井知事】

今日は西村委員長を始め、皆さんお忙しい中ご出席ありがとうございました。また、それぞれ貴重なご意見ありがとうございました。

今ほど、黒部ルートの話が出ましたけれども、県の協力体制の話もありましたが、この点は、関西電力さんと色々ご相談している最中でありますので、協議がまとまった際には、そういったこともできるだけ言及したい。ただ、大きく言えば、今の議論の方向としては、安全対策は、国の許可条件の経緯もありますから、基本的には関西電力さんが責任を持っておやりになる。一方で、旅行商品化に伴って、例えば、お客さんの利便性の向上のために色々なサービスをする。そういった部分は、私ども県なり、地元のこうした何らかの形で旅行業を行う営業主体ができると思いますから、そういったところが役割を担うと。おのずから良識的な役割分担があると思いますので、そういったことをしっかりとやっていきたいと思います。

また、今日は、ブランドコンセプト、またロープウェイなどにつきましても、自然保護・景観保護など、色々な観点からのご意見が出ました。私もツェルマットに行って、ずいぶん学ぶ点があったんですけども、この自然保護・景観保護といっても色々な視点があるわけで、これは論議を尽くす必要があると思いますけれども、当然ながら自然保護を大切にすることは当然のことですから、それをしっかり前提としながら、どんな工夫ができるか。例えば、ツェル

マットの大きなロープウェイのゴンドラも人によっては、乗っている人からすればすごい快適で素晴らしい景色ですけれども、それより下の山腹から見ている人がどう思うかというのは、これは色々な見方があると思う。私なんかは、あのロープウェイは実に素敵ですし、どういったらいいか、設計も素晴らしくて外観もいいなと、センスがいいなと感じますけれども、人によっては、それがあつこと自体がその自然、景観を損なつていると思つている人もいるかもしれません。そういったこともよく論議を尽くして、色々な懸念や権限をお持ちの国の役所がありますから、ご相談をしてみたいと思つています。

次回、先ほどの資料にもありましたけれども、5月中旬から6月にかけて、ぜひお忙しい皆さんですけれども、再度この検討会をやりまして、いただいた色々な課題、また、関西電力さんと色々な協議をしているわけですけれども、できればそれなりに、今日は、岩根社長の代わりに岡田執行役員においでいただきましたが、しっかりと取り組んで、皆さんがそうかと、そういう大きな方向がきちんと出たんだなということになりますよう、最大限努力をしてみたいと思ついます。また、委員の皆様には、それぞれの立場で、今後とも、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。本当に今日はありがとうございました。

#### **【西村座長】**

ありがとうございました。時間が押しまして申し訳ございませんでした。それでは事務局にお返しします。

以上